

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 土田 和博

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	近本 聡子	経営	H0404087
	②	植村 義秀	福祉	H1801080
	③	川畑 俊一	福祉	H2301081
	④	笹野 武則	福祉	H2301005
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害者支援施設			
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活介護			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(機能訓練)			
	<input type="checkbox"/> 自立訓練(生活訓練)			
	<input type="checkbox"/> 就労移行支援			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(A型)			
	<input type="checkbox"/> 就労継続支援(B型)			
<input checked="" type="checkbox"/> 施設入所支援				
評価対象事業所名称	友愛学園成人部			指定番号 1312800046
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-130-2		
	TEL	0428-74-4192		
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行			
契約日	2025年 5月 26日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 8月 26日			
利用者調査結果報告日	2026年 1月 6日			
自己評価の調査票配付日	2025年 8月 26日			
自己評価結果報告日	2026年 1月 6日			
訪問調査日	2026年 1月 26日			
評価合議日	2026年 2月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、聞き取り方式で、重度の方が多いので、事業者と協議のうえ、聞き取り可能な方から行いました。職員調査は、職員に対して、評価者から調査の趣旨等について事前に説明をして実施しました。訪問調査は、評価者が事業所にて、経営層からの聞き取りと、関係する書類、資料を直接閲覧して、確認を行いました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)利用者の一人一人をかけがえのない存在として大切にし、利用者の個性、主体性、可能性を尊ぶ 2)いかなる差別、虐待、人権侵害も行わない 3)個別性を尊重した支援に取り組む 4)より良い生活環境を心がける 5)QOLを念頭においた支援の実践を行う</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>①利用者の願いや思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材 ②利用者の望む生活の実現の為、自身の知識や経験を深め、自己研鑽する人材 ③利用者支援や、社会貢献などのソーシャルアクションを通じ、職務職責を楽しむことが出来る人材</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>①利用者の思いや希望に共感し、その実現に向けて全力で取り組む姿勢を期待する ②自身の行動や支援が、利用者の生活の質、幸福度に繋がることを理解し、内省をもって日々支援を行う姿勢を期待する ③入所している利用者の家族が安心と思える支援、生活環境の整備に努める姿勢を期待する</p>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	事故防止に向けた危機管理意識を高め、対策案の共有、設備面での改善を図っています	
内容①	前年度に生じた誤薬や転倒・骨折事故をふまえ、危機管理・事故防止に対する意識を高め対策を講じています。成人部や法人内で起きた事故・ヒヤリハット報告をリスクマネジメント委員会で分析して対策案を共有し、併せて職員への啓蒙や研修、指導、注意喚起を行っています。設備面では見守りカメラ未設置のユニットにも設置し、衝撃緩衝床材への張替えを行いました。安全や利用者の原因不明の傷などに対する職員の意識が高まり、見守りカメラの映像を確認して原因確認や共有を図り、安全配慮を十分行い、けが防止、トラブル未然防止に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-5	利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている
タイトル②	利用者の創作活動を「工房YUAI表現活動」として広く知られるよう取り組んでいます	
内容②	工房での日中活動で利用者が個性的で独創的な作品を数多く作っており、利用者の活動を「工房YUAI表現活動」として広く知ってもらう取り組みを行っています。作品展や公募展に出品して受賞する作品も多く、自動車のラッピングやクリアファイルのデザイン等に絵が採用され、市民ギャラリーでの作品展開催や月間雑誌に掲載される等、社会的に広く認知されてきています。また「違いを認め合う共生社会の実現」、「障害のある方の魅力発信」を目的に、タブロイド紙や作品集の発行、作品展の主催、HP「工房YUAI」での情報発信を行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-13	【施設入所支援】入所施設において、日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行っている
タイトル③	様々なニーズの利用者を受け入れ、可能な限り成人部で生活できるよう支援しています	
内容③	行動障害を含め10代後半から70代中盤までの年齢層の利用者を支援し、障害特性や介助度、年齢等多様な利用者が、可能な限り成人部で生活が送れるよう取り組んでいます。障害状況や重度高齢化に対応した環境整備・支援体制によるユニットケアを行い、日中活動、健康管理、食事、身体機能等について支援員、看護師、栄養士、PT・OT・ST等の専門職が連携して利用者一人ひとりに添った支援を行っています。また様々なニーズの利用者を新規に受け入れ、17歳男性(児童施設)・50代女性(家庭)・50代男性(高次脳機能障害)が入所しました。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	創作活動、リハビリ、運動・健康維持を活動の3本柱と位置付け、活動の種類・内容を多く設けて利用者のニーズに応じた支援を行っています
	内容	〈創作活動、リハビリ、運動・健康維持〉を活動の3本柱と位置付け、活動の種類・内容を多く設け、一人ひとりの利用者のニーズに添ったプログラムを立てて支援しています。創作活動により絵画、和紙、陶器、木工、染色等の作品を作り、作品展の開催、公募展への応募、販売等を行っています。リハビリは作業療法士が個々のリハビリ計画を立て、PTと連携してトレーニングを行い、音楽療法士による音楽活動や体操、太鼓演奏などの表現活動などを通じた心身のリハビリテーション等のほかスヌーズレンや足湯等のリラクゼーションなども行っています。
2	タイトル	余暇活動を(利用者の楽しみ・社会参加)として位置づけ、利用者に合わせて様々な余暇支援を行い、生活を豊かにしています
	内容	余暇活動を(利用者の楽しみ・社会参加)として位置づけ余暇支援を行っています。余暇委員会・日中活動職員が企画・実施するイベント・季節行事のほか、ユニット余暇、外出・買物、特別余暇、誕生日余暇を行っています。ユニット余暇は2カ月に1回、ユニット独自の余暇を企画・実施し、週末ドライブでの外出・買物、利用者の要望に添った特別余暇(カラオケ、温泉、買い物、外食、家族等との交流・お墓参り等)、誕生日余暇での個別のお祝い、ガイヘルを利用した外出等を行っています。また、コロナ禍により中断した宿泊旅行も試行的に再開しました。
3	タイトル	多くの協力医療機関や専門職との連携を図り、利用者の高齢・重度化に伴う健康管理や医療ケアに速やかに対応できるようにしています
	内容	利用者の高齢・重度化等により、健康管理や身体機能面への支援の必要性が高くなっています。そのため、多くの医療機関と連携して健康管理を行い、支援員、看護師、PT・OT・ST等専門職が連携して、食事提供や機能維持に配慮した支援を行っています。内科・精神科の嘱託医が毎月2～4回、訪問歯科が毎週来所して診療を行い、医療機関の協力により、医療的ケアの必要な利用者や体調変化などに速やかに対応できる体制ができています。医療機関との連携が円滑に行えることにより、職員にとっても心強く安心して支援が行なうことができます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	人事評価制度の運用状況や職位・職責等に対する処遇を見直す等により、次期指導職層等必要な人材の育成を図っていくことが望めます
	内容	若手職員の採用、次期指導職層の育成を課題としています。背景として、セカンドキャリア職員が増え、職員の年齢層に偏りが生じていることや、指導職層の立場・責任に対する処遇面の課題を感じています。人材育成は法人統一の人事評価制度の基で行っていますが、職員自己評価からは人材育成制度に対する職員の理解は高くない状況がみられ、制度が浸透していないことが伺われます。次期指導職層の育成を含め人材育成は難しい課題ですが、人事評価制度の運用や職位・職責に対する処遇を見直す等により、必要な人材の育成を図っていくことが望めます。
2	タイトル	施設建て替え延期に伴い、資金計画等を含めて中長期計画の見直しを行い、現施設の設備更新や環境改善に取り組んでいかれるよう望みます
	内容	施設の建て替えが10年程度延期になったことに伴い、設備更新・修繕、環境改善が重要となり、優先順位をつけ昨年度から実施しています。現施設の建物や設備の老朽化状況をふまえ、利用者が安心・快適に生活し、また職員の負担軽減を図っていくためには、設備更新・修繕、環境整備等を資金計画を含めて計画する必要があります。中でも資金計画は建替資金の積立との関係もあるようですので、整備更新や修繕、高齢化等の変化に合った環境改善等について、資金計画も含めた中長期計画を法人、職員と連携して再検討し、取り組んでいかれるよう望みます。
3	タイトル	利用者との向き合い方や支援者の役割など、権利擁護・危機管理の想像力を豊かにし、支援の質や危機管理意識を高めていかれるよう望みます
	内容	利用者との向き合い方や支援者の役割に対する〈想像力〉を高める必要があると考えています。「利用者の一人ひとりの願いや思いに耳を傾け、理解し、共感」(倫理綱領)するためにも想像力は大変重要です。また、特に危機管理や事故防止においては「大丈夫だろう」ではなく「そうなるかもしれない」という、リスクや事故発生の可能性に対する想像力は管理職を含めて職員には必要不可欠です。利用者の権利擁護、危機管理に対する想像力をより豊かにして支援の質を高め、労務管理等を含め重大事故防止に対する意識をさらに高めていかれるよう望みます。

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 土田 和博

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号
	①	植村 義秀	H1801080
②	川畑 俊一	H2301081	
③	笹野 武則	H2301005	
④			
⑤			
⑥			
福祉サービス種別	短期入所		
評価対象事業所名称	友愛学園成人部	指定番号	1312800046
事業所連絡先	〒	198-0001	
	所在地	東京都青梅市成木2-130-2	
	TEL	0428-74-4192	
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行		
契約日	2025年 5月 26日		
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 8月 26日		
利用者調査結果報告日	2026年 1月 6日		
自己評価の調査票配付日	2025年 8月 26日		
自己評価結果報告日	2026年 1月 6日		
訪問調査日	2026年 1月 26日		
評価合議日	2026年 2月 10日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は2025年8月1日から31日までの利用者を対象に実施しました。職員には、説明会を開いて評価の意義や評価手法について説明して実施しました。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	利用時の対応を丁寧に行い、利用者・家族等が安心して利用できるよう留意しています	
内容①	短期入所担当を主任、副施設長が担い、見学や利用希望、受け入れ時の対応を丁寧に行っています。家族等と綿密なやり取りを行って生活環境や家族等の状況、要望等を丁寧に聴き取って情報提供書等に記載し、家族からの申し送りや要望等ユニットに確実に伝え、利用者が安定した状態で利用できるよう心がけています。また、家族等の状況等に応じて、短期入所以外の障害福祉サービス等の情報などもその都度丁寧に説明しています。利用中の利用者の様子を口頭や書面で家族に伝え、利用者の支援上の課題を家族に報告し、支援方法や対応を相談しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている
タイトル②	利用者の情報や要望等をふまえ、普段と変わらない過ごし方ができるよう配慮しています	
内容②	家族等からの情報や要望を職員間で共有し、障害特性や疾病等に配慮して利用期間・頻度の少ない利用者でも安心して利用できるよう支援しています。利用時にも普通の生活に近い過ごし方ができるよう、嗜好品や趣味の物品等を持参するよう勧め、利用者の特性に配慮しながら声かけや丁寧な対応を行うよう留意しています。利用中の生活は成人部の日課に準じますが、夜間の入浴や作業所等への通所、就寝時間など普通の生活に合わせられるよう配慮し、自分でできることなどは利用者のADLをふまえ、無理のない範囲で自分で行なえるよう支援しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用中の日中の過ごし方は、日中活動事業所への通所を併用するなど、利用者・家族等の希望に沿った利用ができるよう柔軟に対応しています
	内容	短期入所の利用方法は利用者や家族等の希望に沿った形で利用ができるよう柔軟に対応し、利用中も普段の生活に近い過ごし方や社会参加ができるよう支援しています。日中は成人部から他の日中活動事業所に通所したり、移動支援など他の福祉サービスと組み合わせた利用の仕方や、日中活動事業所への通所後の利用受け入れのほか、短期入所と成人部の日中支援(生活介護)を組み合わせた利用もできるように対応しています。成人部の日中活動への参加は、生活介護の支給を受けていない利用者でも、希望に応じて創作活動などを利用できるようにしています。
2	タイトル	定員は1名ですが地域資源として様々な目的の利用受け入れを行い、必要に応じて他の障害福祉サービス等の情報提供や相談にも応じています
	内容	定員は1名で居室が介護系のユニットにあるため、行動障害等の利用者の受け入れは難しいですが、地域の社会資源として、家族の就労支援やレスパイト、本人の体験、将来的な施設入所等、様々な目的の利用受け入れを行っています。成人部で感染症が発生した場合も受け入れ中止にせず、発生状況を家族等に説明して利用の判断を委ねています。また、利用者・家族等の状況や相談に応じて必要な情報を適宜提供し、他の障害福祉サービスや利用方法等の情報などを丁寧に伝えています。必要に応じて相談支援事業所を通じて情報共有を行い支援に活かしています。
3	タイトル	
	内容	
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日頃感じている短期入所サービスに関する課題について、改善策を職員と共有しながらより良い短期入所サービスが提供できるよう望みます
	内容	利用期間が短く入退所が頻繁になることに伴い、改善したい点をいくつか感じています。服薬変更等利用者情報の速やかな周知・徹底、利用者を感じていることへの理解や配慮が不足していたり家族が要望や苦情等を伝え難い面があるかもしれない、居室の物品整理の必要性、等を感じています。そのため、日誌ソフトの伝言機能を活用して速やかな情報共有を行う、利用者や家族とより話しやすい関係づくり・雰囲気づくりを大切にする、等が必要だと考えています。これらの取り組みを職員間で共有し、より良い短期入所サービスを提供していかれるよう望みます。
2	タイトル	定員1名のため難しい課題ですが、緊急時の利用など地域資源としての役割が更に果たせるよう、現状をふまえた工夫や取り組みが望まれます
	内容	短期入所の居室は広めの個室で落ち着いた生活ができる環境で定員は1名です。利用状況はリピーター等の定期的な利用者も多く、そのため、緊急時の依頼に応えられないことや新規の利用受け入れ、特に長期利用が難しい状況があるようです。短期入所事業を「地域支援・地域資源としての役割を担う」事業と考え運営しており、緊急受け入れに関しては可能な限り対応していきたい、と考えています。定員が1名のため難しい課題ですが、利用状況をふまえ、受け入れ方法を工夫する等により、地域資源としての役割を更に果たしていかれるよう望みます。
3	タイトル	
	内容	